

瀬戸内に建つ、400年の歴史

寺とも
かわら版



徳成寺
とく じょう じ

第222号 2025年6月 発行責任者／住職・大山健児 坊守・大山ひとみ

お坊さんの処方箋・明日ありと思う心

いつもありがとうございます。

住職の大山です。今月は「有後心・うけんしん」

有間心」です。耳慣れない言葉ですが、「まだ後がある」「まだ時間がある」と先延ばしにする心の事です。

親鸞さんは、9歳で出家得度する際、どういう訳か夜中に寺の門を叩いて、即刻得度させるようお願いしたと伝えられています。その折に詠んだ歌が「明日ありと思う心の仇桜夜半に嵐の吹かむものは」です。

今美しく咲いている桜を、明日も見ることが出来るだろうと安易に決めつけていると、夜中に嵐が吹いて散ってしまうかもしれないということなのです。自分の人生にとっての重大事です。先延ばしにし、どうでもいい事に時間を浪費してしまっているのではないのでしょうか。いわんや人間関係においてをや。愛する人に待ちぼうけさせたり、ぞんざいに扱ったりしている人が多いのではないのでしょうか。反対に、もう「明日はない」「今しかない」と私たちの時間への

向き合い方が一変するなら、きつと無益な諍いや戦争なんてなくなるのでしよう。

平和の中身

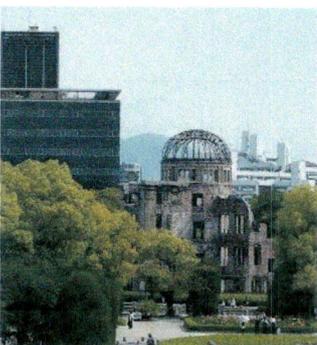
大山超世の耳を澄ませば

お世話になります、副住職です。

5月に研修で広島平和記念資料館に行きました。ジオラマ展示からリニエールされ、原爆投下後の凄惨な様子を記録した写真展示が中心となっており、正直気分が滅入りました。展示の中間地点では暗い室内から陽光溢れる平和記念公園が一望できるテラスへと移動するのですが、私達の普段の生活と戦争の惨禍と常に隣り合わせであると否応なく思い知らされます。資料館をめぐる中で、押井守のある作品の中で、平和について語る以下のセリフを思い出しました。A「正当な代価を余所の国の戦争で支払い、その事から目を逸らし続ける不正義の平和。それが俺たちの平和の中身だ」

永遠に生きていられるかのような慢心が、この世を生き辛くしていると、思わざるを得ません。この有後心・有間心を翻して、無後心・無間心に転じるのが南無阿弥陀仏です。

B「そんなきな臭い平和でも守るのが俺達の仕事だ。たとえ不正義の平和だろうと、正義の戦争より余程ましだ」米国の核の傘下に入りながら、反戦、反核を叫ぶのは欺瞞だと思っていました。しかし、そう思っていたのは私が無知だからだと痛感せざるをえません。まずは歴史を学び、どんな形にせよ、平和を訴え続ける大切さを学びました。



テラスから見た
原爆ドーム